



## 蓮田市・埼玉県にかかわる災害年表

西暦	元号	年	月	事柄
818	弘仁	9	7	北関東地震。大地震。「関東諸国山崩れ谷埋まる」
878	元慶	2	9	相模・武蔵地震。「地陥り公私の奥舎破倒して一も全きものなく圧死者算を知らず」
1201	建仁	1	8	関東一帯大暴風雨にて民家倒壊。北葛飾地方大津波のため「溺死者1千余人におよぶ」
1225	嘉祿	1	5	疫病のため死者数千。「炎早旬を越え」稲苗が枯れる
1257	正嘉	1	8	正嘉地震、関東南部に大きな被害。「山岳崩壊、地裂く。」建物倒壊し被害甚大
1259	正元	1		飢饉。「正嘉年中より災異つづき、飢疫ならび行なわれ、死者多く、人相食むの惨あり」
1293	永仁	1	4	鎌倉大地震M7.1、余震多発。大地震。「山崩れ、水湧くこと3尺余。死者2万という」
1596	慶長	1	6	百年来の大水
1605	慶長	10	1	地震。「関東地大いに震い、死者多し」
1609	慶長	14	3	「武州葛西辺雷はげしく鳴震い氷雨降りて農家17〜18戸破れ震死するもの多し」
1637	寛永	14	8	大風雨で利根川、荒川大洪水
1649	慶安	2	5	川越に大雹降る。「大きき瓜の如し。人馬多く死す」
1703	元祿	16	11	元祿地震M8.1。関東南部に津波
1707	宝永	4	10・11	宝永大地震・富士山大噴火により降灰
1723	享保	8	8	大風雨で利根川、荒川洪水。岩槻領に出水
1731	享保	16	8〜9	関東地方大風雨、各地で洪水
1732	享保	17	4〜5	関東一円凶作、米価騰貴、疫病流行
1742	寛保	2	8	関東諸国未曾有の大洪水、利根川、荒川など氾濫、荒川平水位より約60尺上る
1757	宝暦	7	4〜5	関東大洪水、利根川、権現堂川決壊
1770	明和	7	5〜8	100日間全国的に旱魃。田畑所作立ち枯れ
1780	安永	9	6	大雨続き、利根川、荒川など各所で堤防決壊
1783	天明	3	7	6月未より浅間山噴火、7月最大。蓮田の村々も被害を受ける
1783	天明	3	10	この年関東地方凶作。春から非常に低温。6月大雨洪水のため
1784	天明	4	6	諸国大飢饉、米価騰貴、疫病流行。上平野村作物不作
1786	天明	6	7	大雨続き利根川の堤防決壊、栗橋、岩槻など洪水
1816	文化	13	9	大嵐。上平野村農家屋根6棟吹き飛ぶ
1823	文政	6		上平野村大水で困窮
1824	文政	7	8	上平野村大水で困窮。不作の年が続く。関東大風雨、荒川筋出水
1833	天保	4		上平野村、大凶作の記録あり
1834	天保	5	5〜6	夏より秋、米価騰貴、飢饉
1836	天保	7	8	大風雨のため、作物が倒れて水浸しとなる。4月頃より雨多く、飢饉続く
1846	弘化	3	6	関東各地で大洪水。上平野村・上蓮田村出水のため作物に大被害
1855	安政	2	10	安政江戸地震 M6.9、死者4,700〜1万1,000人。新宿村元荒川土手およそ200間(362m)、土地が割れ泥砂が吹き出す
1859	安政	6	6	関東大風雨、各地で洪水
1859	安政	6	8	雨風。黒浜村地内元荒川堤決壊。田畑の作物が水腐れ。耕地亡失
1885	明治	18	7	大風雨・洪水
1890	明治	23	5	平野村田畑286町8反
1890	明治	23	8	暴風雨・洪水。利根川破堤251カ所。荒川破堤125カ所。蓮田市域の被害甚大
1893	明治	26	5	綾瀬村凍霜害。畑2町2畝
1898	明治	31	9	綾瀬村浸水2戸・田畑56町5反
1907	明治	40	5	綾瀬村・黒浜村雹害
1907	明治	40	8	安政6年以来の大洪水
1910	明治	43	8	破堤・増水し、綾瀬・黒浜・平野各村内に濁流が氾濫する。黒浜・平野村の農作物は全滅
1911	明治	44	4	南埼玉郡凍霜害5463町
	大正	5	5	南埼玉郡凍霜害3817町
1923	大正	12	9	関東大震災、綾瀬村全壊8戸死傷者1人・黒浜村全壊3戸・半壊18戸死傷者3人
1931	昭和	6	9	西埼玉地震。平野村半壊2戸
1938	昭和	13	6	暴風雨。蓮田防空監視所倒壊
1947	昭和	22	9	カスリーン台風。田畑の被害黒浜村149町9反・平野村8町・蓮田町8町
1953	昭和	28	5	南埼玉郡内凍霜害桑畑198町
1961	昭和	36	6	降雹。蓮田町の梨・桃など果樹や農作物に被害
1962	昭和	37	9	蓮田市雹害農作物に被害
1966	昭和	41	6	台風4号、蓮田市の被害浸水3戸。田畑350ha
1966	昭和	41	9	台風26号、蓮田市の被害、全壊1戸・半壊1戸・死傷者1人
1967	昭和	42	6	蓮田市雹害。小麦・野菜・果樹などに被害
1968	昭和	43	4	蓮田市雹害。野菜・麦・梨などに被害
1971	昭和	46	8	雹害。蓮田町の農作物被害2億6千万円
1977	昭和	52		今宮橋落下崩壊
1983	昭和	58	8	雹害。蓮田市の梨ほぼ全滅
2011	平成	23	3	東日本大震災

参考文献：『蓮田市史』『埼玉県の気象災害』『新編埼玉県史図録』『図録春日部の歴史』『埼玉県市町村誌』『朝日百科日本の歴史』8・9『埼玉県水害誌』『広報はすだ』『見沼代用水沿革史』『幸手市史 通史編I』

家屋流出 396 戸、全壊 725 戸、田畑の被害も合わせると、当時の金額で 100 億円にのぼりました。蓮田市域で家屋の被害の記録はありませんが、田畑の被害は、黒浜村 149 町 9 反、蓮田町 8 町、平野村 8 町で、戦後間もなくの暮らしをさらに苦しいものにしました。

### 2. 梨や農作物の大敵―台風とヒョウ害―

蓮田の梨栽培は明治 28 年ごろまでさかのぼり、県内有数の特産地として知られています。柔らかい梨にとって、雹による被害は深刻です。なかでも昭和 46 年(1971)と 58 年(1983)の雹による百年に一度とも言われ、被害は大きなものでした。特に、昭和 58 年の雹害ではほぼ全滅し、被害は 4 億数千万円にのぼりました。また、台風によって農作物が倒れたり、実が落ちることも深刻な被害をもたらします。

### 《平成の災害―これからの対応》

21 世紀に入っても、私たちは台風災害や局所的豪雨災害、火山噴火等、様々な災害にみまわれました。しかし現在、第 2 次大戦後の復興の時とは異なり、急速に震災直後の寄り添う気持ちが薄れていくことが指摘されています。最後に、今までの災害の歴史から得た教訓を見てみましょう。

「明治 43 年の大洪水で困ったのは飲料水と薪であったことを思い出す…。食料の備蓄と停電や交通途絶及び流行病への対応の心がけが常に大切であると思う。」と、市内の聞き取りの記録に残っています。

また関東大震災では、地震よりその後の火災の被害が大きく、「グラッときたら火の始末」という有名な教訓が広まりました。さらに、1 つのデマのために朝鮮人が虐待されるという悲劇が起こり、災害の中で誰もが不安であるときには、正確な情報を受け取ることがいかに大切かを教えられました。

また、江戸時代の救済・救援は、村内やその支配組織などに限られていたものが、近代には、交通網の発達などにより、より地域は拡大します。特に今回の震災では、情報網の発達から全世界へと救援活動は広がりを見せました。反面、平成 23 年(2011)3 月 11 日の東日本大震災以降も、嘘の情報や風評被害が後を絶ちません。地域により、災害により、対処法が異なる場合もあるでしょうが、今までの教訓を忘れずに、適確に判断し、協力し合うことが必要です。

最後に、このたびの大震災により亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りすると共に、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

たため、火事による被害は非常に大きく、倒壊家屋 11 万弱に対し、焼失家屋 21 万強でした。死者も圧死者 1 に対して焼死者 9 という割合で、圧倒的に火災被害によるものでした。

### 2. その日蓮田は…

『埼玉県市町村誌』によると、綾瀬村の全壊 8 戸、死傷者 1 人、黒浜村の全壊 3 戸・半壊 18 戸・死傷者 3 人(平野村は記録なし)となっています。

昭和 56 年(1981)6 月 15 日の『広報はすだ』には、関東大震災を実際に経験した、蓮田市在住の 18 人の方々による座談会が掲載されています。それによると、

- 元荒川ぞいの堤防が長さ 400m ほど隆起・陥没した。
- 大きな地割れが 1m 位あった。地割れから砂水や大きな軽石が噴き出したところもあった。
- 夜になって東京方面の空が真っ赤になって新聞が読めた。
- 朝鮮人が毒を入れているとか、近隣の市町村に暴れてやって来るという話を信じてしまい、自警団を組織し、トビ口等を持って 3 日間昼夜交替で見張りをした。数日間は殺気立っていたが、実際は一人もみかけず、後で考えるとなぜ本気にしたかと思った。

などという事が語られました。

### 3. その後の対応―黒浜村事務報告から―

黒浜村の大正 13 年(1924)の記録によると、村で被害調査と租税免除があり、その結果、田で 2 町歩・畑で 30 町歩・宅地で 4428 坪が震災による免除を受けています。また、大正天皇からのお見舞い金 64 円や全国から寄せられた義捐金・外国からの毛布などを、黒浜村の被害を受けた村民や避難してきた方々に分配しました。また、教職員や児童、村役場の職員たちもそれぞれに義捐金を出し合いました。

### 《昭和の災害―カスリーン台風とヒョウ害―》

### 1. カスリーン台風

昭和 22 年(1947)9 月のカスリーン台風では、利根川・荒川が決壊し、明治 43 年の記録を抜く大増水となりました。埼玉県全域の死者は 101 人、負傷者 1430 人、

を始めとして、たびたび大きな水害が起こりました。

特に明治 43 年は、寛保 2 年(1742)以来の大水害で、8 月 1 日に降り始めた雨は、12 日まで降り続き、さらに豪雨となって 14 日まで降りました。被害は死傷者 401 名・家屋全半壊 2214 棟・破損 24,849 棟・家屋流出 1631 棟・床上浸水 84,538 棟にのぼり、埼玉県一帯が被害を受けました。

綾瀬村では、元荒川・綾瀬川・見沼代用水路の堤防決壊 10 数カ所、田畑耕地 509 町歩のうち収穫がまったくできない田畑は 465 町歩(一町=1ha)にのぼり、戸数 614 戸のうち、県の罹災救助を受けた戸数は 357 戸でした。綾瀬村の起債申請のときの記述によると、「闔(すべての意)村ヲ浸スコト二十数日」とありますが、平野村・黒浜村も同じように大きな被害を受け、農作物は全滅、多くの人が県の罹災救助を受けました。

### 2. その後の対応―役場や議会、村民たち―

綾瀬村では、450 円の借入を県に申し込みましたが、そのなかで「今未曾有の大災害にあり、村民の多数は衣食に困り、職を求めても職もなく、ささやかな副業で生活をいとなんでいる」と苦しい状態を訴えています。

その上、税収もなかなか集まらない状態では、返済も厳しいものでした。他の村も同様で、県からの借入だけでなく起債も行って、村民の生活を守ろうとしました。

また駒崎村では、大洪水で稲作の収穫が無く、村役場で配給された「南京米」(外来)と麦飯の生活が続いたという経験談が残っています。ハレー彗星が近づいた年で、尾をひいた姿がひととき大きく見えたことから、人々の不安も増したようでした。当時の県会議員飯野喜一郎も日記の中に各地の視察からその後への対応と奔走したことを記しています。また、見沼代用水の吾庵橋の側には、被害状況や復興について記された、碑が残されています。(図 5) 堤防修築記(拓本) 嶋田家文書

### 《大正時代の災害―関東大震災―》

### 1. 大地震が起きた日―大正 12 年 9 月 1 日―

午前 11 時 58 分相模湾を震源とするマグニチュード 7.8 の地震がおそいました。死者、行方不明者 10 万 5 千余人、10 万 3733 人が負傷しました。昼時に発生し

どうかい



列車で避難する人々（大宮駅）毎日新聞社提供『新編埼玉県史図録』より